

◆ 第16回 のむら復興まちづくりデザインワークショップを開催しました！

野村地区の復興まちづくりについて話し合う「のむら復興まちづくりデザインワークショップ」。令和4年3月31日（木）に開催した第16回目の内容を報告します。

▶ 開催記録

【日時】 令和4年3月31日（木）19:00～21:00

【場所】 野村公民館3階 【主催】 西予市

【協力】 愛媛大学、東京大学復興デザイン研究体

【参加者】 60名（市民、各種団体代表者、野村高校生、野村中学生ら）

【内容】 ○野村高校生による「菜園共創プロジェクト」一年間の活動の振り返り
○左岸側レクリエーションエリア 前回ワークショップで出た意見の反映内容
○グループワーク「左岸側レクリエーションエリアの事前活用について」

▶ 野村高校生による「菜園共創プロジェクト」一年間の活動の振り返り

野村高校生による復興まちづくりの取組である「菜園共創プロジェクト」。令和3年度一年間の活動をまとめた動画を放映しました。タイトルは「奇跡 軌跡 輝石～菜園で彩る、私たちの復興まちづくり～」。約8分半の動画に、これまでの活動の様子をぎゅっと凝縮して紹介している素晴らしい動画になっています。

この動画は「愛媛県立野村高等学校 YouTube（ユーチューブ）チャンネル」で視聴することができます。活動の様子と共に関わってきた生徒の皆さん、地域の皆さん方の素敵な笑顔を見ることができます。是非ご覧ください。

【愛媛県立野村高等学校 YouTube（ユーチューブ）チャンネル】

○ <https://www.youtube.com/watch?v=5jBdbfx2Hlg>



▲ 動画の一場面



こちらの QR コードを
読み込んでも視聴する
ことができます。

▶ 前回ワークショップで出た意見の反映

前回の意見を基に、主に3つのポイントについて実施設計に反映しました。

① 利活用面積を最大化する空間構成への見直し

→ 親水空間をやめ、スポーツ広場を拡大する。

② 誰でも、ひとりでも、楽しめる施設の充実

→ 壁あてから公式試合まで、幅広い利用ができる場所にする。

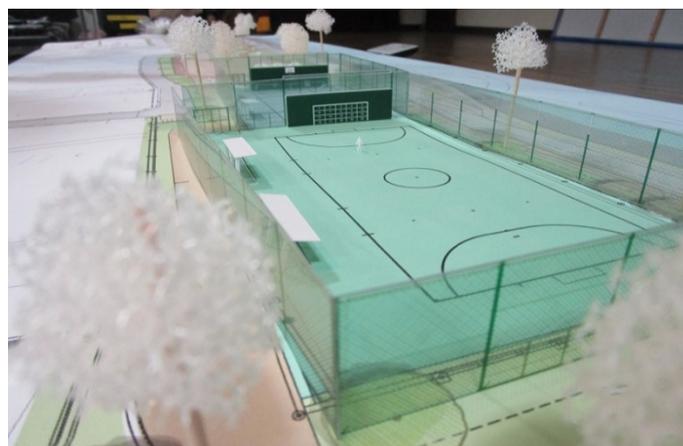
③ 肱川沿いの環境を生かしたレクリエーションの場

→ 多目的に使える余地を。災害の記録を示すサインなどをさりげなく配置する。

河川沿いに計画していた親水空間について、必要性を今一度考え直す意見が多かったことを踏まえ、親水空間自体をやめ、その分スポーツ広場の面積を広げました。また、随所に「プレイウォール」や「スポーツウォール」と呼ばれる、ボールを壁にあてて練習したり、遊んだりできるような設備を配置しました。こうした工夫により、スポーツコートは「個人での練習から公式試合まで」、レクリエーション広場は「より多目的」に、幅広い利用が可能となりました。



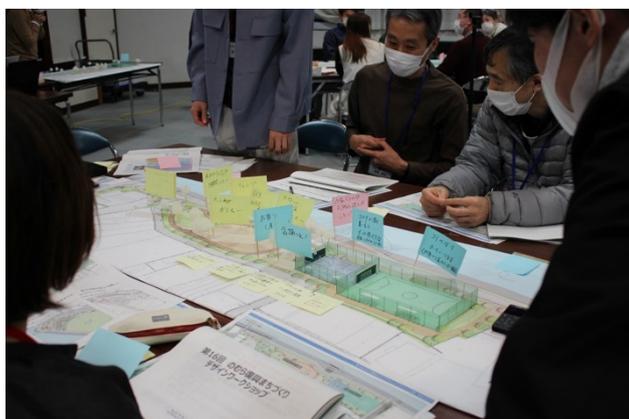
▲ レクリエーションエリアのイメージ図



▲ スポーツコートのイメージ模型

▶ グループワークの結果

左岸側レクリエーションエリアは、整備開始までの一定期間更地空間となる予定です。整備開始までの間の有効活用策について考えるグループワークを行いました。



○青空映画 ○BBQ イベント ○盆踊り
○こいのぼり ○軽トラ市 ○花火 など
広大な空間を有効に活用するためのアイデアが多く出てきました。普段なかなかできないことをやってみたいという意見が多かったように思います。実現に向け、今後さらにワークショップでの検討を進めていきます。

のむら復興まちづくりデザインワークショップは令和4年度も継続して実施します。